



2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月10日

上場会社名 株式会社ピー・ピーシステムズ 上場取引所 東 福
 コード番号 4447 URL <http://www.pbsystems.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富田 和久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 彌永 玲子 TEL 092-481-5669 (代表)
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の業績（2022年10月1日～2023年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	2,060	22.2	95	△41.2	89	△44.8	62	△45.3
2022年9月期第3四半期	1,685	—	161	—	162	—	113	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	9.68	9.40
2022年9月期第3四半期	18.64	17.90

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を2022年9月期の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	2,546	1,160	45.6
2022年9月期	1,910	891	46.7

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 1,160百万円 2022年9月期 891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,780	11.1	300	11.0	295	12.4	205	11.6	31.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期3Q	6,583,500株	2022年9月期	6,152,800株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	50,095株	2022年9月期	50,095株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期3Q	6,428,961株	2022年9月期3Q	6,102,792株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における国内経済は緩やかな回復基調で推移しました。個人消費や設備投資が持ち直し、企業収益は改善傾向が続きました。情報通信業界も高い水準で好調を維持しています。DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展などを背景に従来型ITからクラウドへの移行が順調に伸びています。企業のソフトウェア投資額も拡大しています。先行きについては、海外景気の下振れ懸念は残るものの各種の政策効果によって回復傾向に弾みがつくことが期待されます。

このような環境下、当社は積極的な事業展開を図り、他社との協業や採用活動をなお一層強化しました。

セキュアクラウドシステム事業においてはプライベートクラウド構築サービスの販売を推進し、4月にはSaaS用プライベートクラウド基盤の大型案件の受注に成功しました(大型受注に関するお知らせ2023年4月28日適時開示)。一方、前期よりスライドした特定案件(製造業向けのVDI構築案件)については、プロジェクト管理体制を強化しました。発注元企業と連携し、早期に完了するよう注力した結果、収束に目途がつきつつあります。

エモーショナルシステム事業においては大手通信事業者との協業を推進するとともに、回復基調にある国内レジャー需要向けのMetaWalkers(旧称:4DOH)関連案件の実行と、企業向けメタバース案件の新規顧客開拓に取り組みました。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,060,153千円(前年同期比22.2%増)、営業利益は95,197千円(前年同期比41.2%減)、経常利益は89,759千円(前年同期比44.8%減)、四半期純利益は62,206千円(前年同期比45.3%減)となりました。第3四半期累計期間の売上高は当社として初めて20億円を超え、過去最高を更新しました。

なお、通期の業績予想につきましては据え置きとしています。特定案件が業績に与えるマイナスの影響と、SaaS用プライベートクラウド基盤の大型案件の下期業績への寄与、その他案件の直近進捗状況を踏まえて期末の業績を慎重に予測した結果によるものです。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

(セキュアクラウドシステム事業)

当社の属する情報通信業界では、国策によるDXの推進や2025年の崖対策などの従来型の需要に加え、生成AIの活用基盤としてクラウドとSaaSの需要が一層高まりつつあります。加えて、SaaS事業者や大手企業、病院などを標的としたサイバー攻撃が後を絶たず、情報システムの防御と回復(レジリエンス)が企業経営者の課題として一層重要となっています。

このような中、当社は、SaaS用プライベートクラウド基盤の大型案件でのCitrix社製ソフトウェア販売や、食品加工などの製造業顧客向けプライベートクラウド構築案件を当第3四半期累計期間に売上計上しました。今期の最重要戦略と位置付けている人財採用活動についても積極的に取り組みました。

前期よりスライドした特定案件(製造業向けのVDI構築案件)については、ベテラン技術者の投入による技術的課題の解決を進めると同時に発注元企業とのコミュニケーションの体制を強化しました。今期末の完成に向けて計画の見直しを行い、着実に進捗しています。

その結果、セキュアクラウドシステム事業の売上高は1,990,598千円(前年同期比19.2%増)、セグメント利益は272,602千円(前年同期比21.4%減)となりました。

本事業の今後の成長に向けた最優先課題は優秀なエンジニアの獲得と育成です。採用については現在、今期中途採用と2024年4月新卒者採用に向けた活動を並行して推進しています。すでに複数の内定者を獲得し、エンジニアの中途採用も徐々に進んでいます。1dayインターンシップも導入し、多くの学生から応募いただいています。育成については、若手技術者に対する1on1指導を実施するとともに、営業人財の技術資格取得によるセールスエンジニアへのキャリアアップを促進しています。

(エモーショナルシステム事業)

エモーショナルシステム事業は、特許技術に基づく360度の3D仮想空間の表現装置であるMetaWalkersを活用し、大手通信事業者との協業を推進しました。遊園地向け専用コンテンツ制作案件や既存MetaWalkersの国営公園内への移設プロジェクトなど、コロナ禍後の国内レジャー需要の回復を契機とした案件による売上拡大にも取り組みました。企業向けメタバースについては第1四半期に受注した企業向けメタバース構築が完了し、その実績を基に自治体向けなどの新規メタバース案件獲得に向けた営業活動を推進しました。

その結果、エモーショナルシステム事業の売上高は69,554千円(前年同期比364.1%増)、セグメント利益は12,850千円(前年同四半期はセグメント損失10,661千円)となりました。

なお、全社営業利益は、各セグメントの営業損益の合計から、報告セグメントに分配していない全社費用190,255千円を差し引いた数値となっています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産の部は、前事業年度末に比べて635,944千円増加し、2,546,322千円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の増加(前事業年度末に比べて390,260千円の増加)、商品及び製品の増加(前事業年度末に比べて141,237千円の増加)、現金及び預金の増加(前事業年度末に比べて31,906千円の増加)、電子記録債権の増加(前事業年度末に比べて31,088千円の増加)、仕掛品の増加(前事業年度末に比べて19,709千円の増加)等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債の部は、前事業年度末に比べて366,998千円増加し、1,386,110千円となりました。これは主に、買掛金の増加(前事業年度末に比べて397,411千円の増加)、前受金の増加(前事業年度末に比べて61,803千円の増加)、未払法人税等の減少(前事業年度末に比べて41,251千円の減少)、受注損失引当金の増加(前事業年度末に比べて35,706千円の増加)、長期借入金の減少(前事業年度末に比べて32,807千円の減少)等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産の部は、前事業年度末に比べて268,945千円増加し、1,160,211千円となりました。これは、新株発行による資本金及び資本剰余金の増加(前事業年度末に比べてそれぞれ103,369千円の増加)、四半期純利益の計上により利益剰余金が62,206千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	653,631	685,537
受取手形、売掛金及び契約資産	977,568	1,367,829
電子記録債権	1,549	32,637
商品及び製品	193,546	334,783
仕掛品	4,875	24,585
原材料及び貯蔵品	235	235
未収法人税等	—	1,924
未収消費税等	—	1,698
前払費用	21,902	28,260
預け金	6,475	6,475
その他	113	4
流動資産合計	1,859,896	2,483,971
固定資産		
有形固定資産		
建物	946	946
減価償却累計額	△205	△252
建物(純額)	740	693
構築物	2,195	2,195
減価償却累計額	△1,868	△1,909
構築物(純額)	327	286
工具、器具及び備品	34,595	40,100
減価償却累計額	△30,745	△33,109
工具、器具及び備品(純額)	3,850	6,990
有形固定資産合計	4,918	7,970
無形固定資産		
ソフトウェア	16,051	12,125
ソフトウェア仮勘定	—	9,034
電話加入権	164	164
無形固定資産合計	16,216	21,325
投資その他の資産		
出資金	30	30
敷金	8,924	8,778
差入保証金	1,257	1,019
長期前払費用	278	146
繰延税金資産	18,855	20,080
投資有価証券	—	3,000
投資その他の資産合計	29,346	33,055
固定資産合計	50,481	62,350
資産合計	1,910,378	2,546,322

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	461,330	858,742
1年内返済予定の長期借入金	51,818	44,312
未払金	44,310	34,785
未払費用	47,295	22,926
未払法人税等	41,251	—
未払消費税等	11,256	—
前受金	142,646	204,450
預り金	6,288	12,018
賞与引当金	—	17,356
受注損失引当金	1,685	37,391
流動負債合計	807,881	1,231,982
固定負債		
長期借入金	66,091	33,284
長期前受金	145,139	120,844
固定負債合計	211,230	154,128
負債合計	1,019,112	1,386,110
純資産の部		
株主資本		
資本金	246,895	350,264
資本剰余金		
資本準備金	246,895	350,264
資本剰余金合計	246,895	350,264
利益剰余金		
利益準備金	165	165
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	440,758	502,964
利益剰余金合計	440,923	503,129
自己株式	△43,447	△43,447
株主資本合計	891,266	1,160,211
純資産合計	891,266	1,160,211
負債純資産合計	1,910,378	2,546,322

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,685,377	2,060,153
売上原価	1,225,158	1,636,995
売上総利益	460,219	423,157
販売費及び一般管理費	298,249	327,960
営業利益	161,969	95,197
営業外収益		
受取利息	8	4
為替差益	652	—
助成金収入	—	2,160
雑収入	785	283
営業外収益合計	1,445	2,448
営業外費用		
支払利息	778	483
保証料	132	132
上場関連費用	—	7,270
営業外費用合計	910	7,886
経常利益	162,504	89,759
税引前四半期純利益	162,504	89,759
法人税、住民税及び事業税	29,123	28,776
法人税等調整額	19,621	△1,224
法人税等合計	48,745	27,552
四半期純利益	113,759	62,206

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	4,288千円	6,379千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年10月5日を払込期日とする公募増資による新株の発行及び2022年10月21日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ91,374千円増加しております。また、新株予約権の権利行使による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ11,995千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が350,264千円、資本剰余金が350,264千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,670,391	14,986	1,685,377	—	1,685,377
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,670,391	14,986	1,685,377	—	1,685,377
セグメント利益又は 損失(△)	346,685	△10,661	336,023	△174,053	161,969

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△174,053千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,990,598	69,554	2,060,153	—	2,060,153
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,990,598	69,554	2,060,153	—	2,060,153
セグメント利益	272,602	12,850	285,453	△190,255	95,197

(注) 1. セグメント利益の調整額△190,255千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。